

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1174500478
法人名	有限会社 相模テクノ
事業所名	グループホーム あかつき
所在地	369-1225 埼玉県大里郡寄居町鉢形3178-8 (電話) 048-581-4761

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年11月28日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年3月5日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	8,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	63歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 田中医院、鳥塚歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームでは、秩父の自然に囲まれた環境の中で、のんびりとゆったりと自由な生活を行うことができる。また、当グループホームでは住み慣れた地域の中でその人がその人らしく最期まで生活できるという安心感と信頼感が、ホームと地域の方たちとの間に構築されている。今年11月1日に少し高台に位置するこの場所に移転されたということであるが、ホームから見下ろすことができる紅葉が美しく、この地域で長い間生活してきた人々たちにとっても、代え難い風景ではないかと思われる。ケアの実践においては、職員はそれぞれの利用者に対して、尊敬と感謝の気持ちをもってケアにあたり、丁寧な言葉遣い、心の自由と行動の自由を大切にされた接遇がされている。また家庭や病院以外の場でその人の最期まで託すことができる場所を提供することにより、ホームに対する信頼度を高めている。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、ホームでの様子を家族に伝える内容の中に、楽しかった様子や嫌なことなどを伝えるメッセージがあると一層良いものになるのではないかとのことであったが、広報や写真などにより細やかに利用者の様子を伝えたり、家族会の際に報告しており、改善が見られた。また、災害時、緊急時の対応のマニュアルとして職員の連絡体制、応急処置など迅速かつ適切な対応が求められるが、応急対応については内部研修での取り組みがあったが、地域住民との協力体制においては今後の取り組みの課題になっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を職員全員が理解し、自己評価の作成に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の場を地域の福祉関係者が気軽に何でも話し合える場となるよう取り組んでいる。今後、運営推進会議の中で、ホームの運営に対する地域の人の意見を聞いたり、グループホームのあり方を協議したいと考えている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>今まで家族からの苦情や不安の表出は特になく、あった場合に常に記録を整え、いつでも説明や報告ができるようにすることを職員に周知している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の住民の方が季節の野菜を持ってきてくれたり、年2回の旅行にも地域の方が同行するなど多方面にわたっての協力が得られている。ホームとして自治会や老人会などにも積極的に参加している。転居後間もないということもあり、現在の場所での地域住民との交流はこれからである。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の具体的な基本理念を定め、高齢者に対して感謝と尊敬の念を抱きながら介護の実践がされている。抽象的な理念ではないので、日々の生活の中で、言葉かけや態度でケアとして実践がされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に理念を意識し、理念に沿ったケアに取り組んでいる。具体的には、職員は利用者一人ひとりに対して、必要に応じた声かけ、丁寧な言葉遣い、心身共に自由な行為や行動を規制することのないケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの移転前は地域との交流が頻繁に行われ、地域の中でのホームは相談機関であり福祉の拠点としての役割も担っていたが、移転後間もないこともあり、地域住民との交流はこれからである。		11月に現在の場所に移転されたこともあり、新たな地域との関係作りが必要とされているが、これまでに築き上げられてきた基本理念を基にした実践を展開されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	これまでの外部評価受審の経験から評価をふまえた改善が実施されている。職員もありのままのケアで評価を受けており、日々の介護への取り組みに自信が伺える。また自己評価の意義を職員全員が理解し、自己評価の作成に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加メンバーには、ホームとしての理念や方針、運営などについて理解してもらっている。さらに理解を得ていくために、ホームを拠点とした地域のイベントの企画を検討している。また、当会議は、地域の福祉関係者が気軽に話し合う機会にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームとして先駆的な取り組みを実践されていることから行政や関係機関からの相談を受ける機会も多々あり、日常的に町担当者と連携し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会において、日々の実践記録を基にした報告がされている。折に触れ日々の様子が写真として、あるいは記録として残されているので、いつでも家族には利用者の日々の様子を報告することができる。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や年に2回の旅行、運営推進会議の際に、家族とのコミュニケーションを密に行い、ホームの運営に対する意見を伺っている。今まで家族からの苦情や不満、意見といった事例はなく、家族もホームの理念を理解し、日々のケアに満足している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員一人ひとりが利用者の思いや性格を理解した上でケアされているので、職員の異動などによる利用者の困惑などは見られない。殆どの職員は常勤であり、基本給や夜勤手当の値上げ等を行っているため、ここ数年、離職者がいない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員体制が組織化されており、役職のある職員による指導がなされている。研修においても外部研修の周知と参加への促しが積極的にされ、参加した職員による内部研修での復命や研修で学んだことの実践がなされている。職員の採用の際にはホームの理念に基づいた価値観を持っているかどうかを重要視している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームはグループホーム協議会のリーダー的な役割を担っており、研修や交流会をとおして同業者と交流し、サービスの質の向上を図る取り組みを実践してきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者やその家族からしっかりと話を聞き、利用者の生活歴や希望をふまえたケアを実施し、ホームでの生活に馴染めるようにしている。新規利用者に徘徊行動が見られた場合、無理に行動を制限することなく、利用者を観察し、その人なりの自由な意思や行動を尊重したケアが実践されているなど、利用者が徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかつき喜び哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の生活において画一的なプログラムといったものではなく、利用者の要求があればその場で対応していくというスタンスをもっており、時には隣に座り、談笑したりする場面も見受けられる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、思いや意向の把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は日々の記録や週報によりその人の状態、状況に応じた計画が作成され、認定期間の更新ごとに見直されている。個別にファイリングされているので見やすく、保管場所については職員がいつでも閲覧できるようになっている。家族からの要望や情報なども参考に作成されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、全職員参加での会議において状況が報告されており、その中で情報が共有化されている。また、必要に応じたケアの見直しなどについても話し合わせ、職員間でケアの統一が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	当ホームは小規模多機能型居 宅介護支援事業所の機能を有 しており、利用者やその家族の 希望に応じて、ショートステイ の受け入れなどの柔軟な支援 を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	かかりつけ医はホームの協力 医であり、定期健診、受診な どにおいても柔軟な対応をし てくれている。看護職員との 連携の基に、家族や本人の希 望によってはターミナルケア の実践も行われている。また 、利用者や家族の希望により 、ホーム提携医以外の医療機 関で受診することもできる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早い 段階から本人や家族等ならび にかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	ターミナルケアの実践におい ては、何より本人、家族の意 向を重視し、何度も話し合い 、合意のうえでの実践にあた っている。全職員がチームと してターミナルケアに取り組 み、医療器具の持ち込みや、 緊急時の連絡体制などが職員 間で周知されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや 対応、記録等の個人情報の取 り扱いをしていない	ホーム内では大きな声で個人 名を呼ぶようなことは無く、 必要時は利用者のそばに行き 対応されている。朝の申し送 りの場では、個人名が判別さ れないよう職員間で利用者の イニシャルを用いるなどの配 慮がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとりの ペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希 望にそって支援している	訪問日、長時間一人でテレビ を見ている方がいたが、その 光景が自然であり、職員は必 要以上の声かけをせず、その 人らしさや自由を尊重されて いた。利用者のそばをとり過 ぎる職員はさりげなく利用者 の様子を観察しており、行き 届いたケアをされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の農家の方々が季節の野菜を届けてくれるため、野菜中心の献立になっている。無農薬米や豊富な野菜などが調理に生かされている。職員も共に食事をし、食べこぼしをそのつど介助するということはあえてせず、こぼすことが当たり前というスタンスで一緒に語らいながら食事をしている。食べ終えた後は利用者自身で膳を下げ、片付けている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日お風呂は沸かし、入浴も可能であるが、入浴も利用者のその日の気分を尊重し、無理強いはいしない。入浴を楽しむことができるようにと、ホーム周辺のゆたかな自然を生かした露天風呂を計画中である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の方の中には今までの生活の延長から喫煙や飲酒の習慣のある方もいるため、生活の楽しみとしての喫煙や飲酒を認めている。また食事の片付けや食器洗い、掃除なども、役割というよりごく自然に行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	基本的には外出の自由を支援している。柵をしたり、施錠することなく、外出時の安全が確保できるようにGPS対応するなどしている。また、徘徊行動においては見守りという形で状況の確認をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	精神の自由、身体の自由という大原則の基に一人ひとりの行動パターンが把握されているので、施錠の必要性がなく、実際にGPS対応により、施錠しないケアを実施している。訪問調査において、玄関前の喫煙所に何度か自由に出入りしている利用者の方を見かけた。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	転居して間もないため、地域での協力や支援の対策は、現在途中の段階である。		居住環境が変わったということで、緊急時や災害時の利用者の避難誘導訓練や救命対応の実施、地域住民への周知徹底を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定時における食事の他に、おやつやティータイム時などで観察や量の把握がされている。また必要に応じて水分が提供されており記録がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に食事のスペースと居間は区別されており、共有空間としてはソファやピアノ、テレビなどが置かれ、家庭の居間で過ごすような雰囲気になっており、その中で自由な時間をそれぞれに過ごしている。訪問調査時に画一的にプログラムを進めるような場面は見られなかった。フロアに大きな太鼓が置かれていたが、訪問日に利用者の方が太鼓をたたく場面が見られた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室に私物がもちこまれ、6畳というスペースも広く感じられる。日当たりも良いため居室の雰囲気は明るく、また避難路やトイレなども完備されているので、プライバシーや安全は確保されている。		